



2年生が修学旅行から戻り、3学年揃っての学校生活が再開しました。2年生は修学旅行の余韻に浸りつつも、3年0学期に向けて気持ちの切り替えを始めてください。3年生は今週末が、推薦選抜試験のピークです。3連休中に約30名が面接・口頭試問や小論文、学科試験などに臨みます。今年にはコロナ禍の影響で、Zoomなどを用いたWebによる面接も少なくありません。時間にゆとりを持ち、落ち着いて力を発揮してください。1年生は今週初めにSDGsの研修が行われました。2年後の入試の時には、高校時代に取り組んだ諸活動の記録を記載し、その提出を求められることがあります。このような貴重な研修の経験は、丁寧に記録して残しておきましょう。

①【受験校の選定(その2)・・・私立大学の志望動向は?】

現3年生の受験動向として、大手予備校などは次のような分析をしています。

- 全国的には・・・大学入学志願者は5%減少する。(既卒生も減少)
- 大学の動向は・・・

● 私立大では歩留まり率低下の懸念から合格者を増やすだろう。

(4年間続いた定員厳格化によって、定員の適正化がほぼ終了した)

⇒ 競争は緩和される

さらに、● 受験生の動向は・・・「新入試への不安」と「コロナ禍の不安」から、

⇒ 安全志向(推薦、総合型選抜で早期に決めたい)が予想されている。

⇒ たしかに、千葉西高校でも、指定校推薦出願者は大幅に増加した。

(指定校推薦の出願者は、昨年40名 ⇒ 56名(前年比140%))

⇒ しかし、都内の大学では年内出願(推薦・総合型)は例年より少ないらしい。

(都内大学の情報交換で示された全体傾向の情報です。)

⇒ 理由は、コロナの影響で、感染リスクが高く、対面授業がなかなか回復しない

● 都内の大学を、全国の受験生が敬遠しているため。

(東京、千葉、神奈川、埼玉の高校生ではその傾向が少ない。)

⇒ つまり、全国的に、『地元志向』が強まっている。

それを裏付けるように、⇒ 国公立大学の志望動向は前年比98%(それほど減っていない)

⇒ 一方、都内私大の志望動向は・・・ 難関大 敬遠の動きがあります

● 河合塾第2回 全統共通テスト模試データより(数字は各大学の、対前年比の志願者数)

早稲田	慶応	上智	東京理科	学習院	明治	青山学院	立教	中央	法政
75%	81%	76%	80%	90%	82%	77%	82%	89%	82%
成蹊	成城	明治学院	國學院	武蔵	日本	東洋	駒澤	専修	日本女子
75%	69%	83%	79%	76%	87%	82%	76%	77%	74%

● 9月模試の志望動向 (駿台・ベネッセ共通テスト模試より)

	一般方式	共通テスト方式	総計
早慶上智	前年比 76%	前年比 235% ※	前年比 92%
MARCH	前年比 89%	前年比 117%	前年比 96%
成成明武 (成蹊大・成城大・明治学院大・武蔵大)			前年比 86%
日東駒専 (日本大・東洋大・駒澤大・専修大)			前年比 94%
大東亜帝国 (大東文化大・東海大・亜細亜大・帝京大・国士舘大)			前年比 90%
女子大 (大妻女子・共立女子・昭和女子・津田塾・東京女子・日本女子)			前年比 84%

※ 早慶上智の共通テスト方式の大幅増は、上智・早大で共通テスト方式を大幅に拡大しているため。

● 慶応大、明治大、中央大、法政大 (入試変更点が少ない関東4大学) の志望動向

一般方式全体	前年比 100%
全学部方式	前年比 124%
個別学部方式	前年比 96%
共通テスト方式	前年比 93%

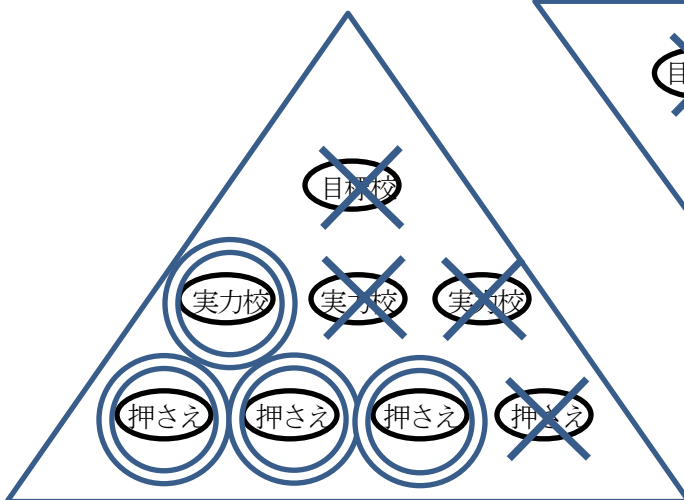
⇒ 全学部方式には人気が集まっている。

②【強気の受験校選択】多くの受験生が難関大を敬遠している今は強気が逆にチャンス!!

なかなか成績が伸びないこの時期には弱気になりがちです。しかも前述のように、全国的に「超現役・安全志向」が広がる中、自分も同じような気持ちを抱いたとしてもやむを得ないことだと思います。

しかし上の表に見るように、「難関大敬遠の動き」は、そこを第1志望とする受験生にとっては逆にチャンスである一方、『押さえ』の大学の志願者がむしろ増加します。ですから、『押さえ』の大学をたくさん受験するよりも、『チャレンジ目標校(第一志望を含む)』を厚く(より多く)受験してもらいたいと思います。もちろん「数打ちや当たる」は通用しませんし、“どうしても浪人できない”などの事情があるかもしれません。しかし、目標校の受験が少ない受験校選定ではやはり合格のチャンスは少なくなります。仮に8校受験するなら、以下のような強気の受験パターンを勧めたいと思います。

弱気の受験パターン (8校)



強気の受験パターン (8校)

